

# 心を動かす プレゼンテーション

二〇二〇年東京五輪招致を勝ち取った招致委員会のプレゼンテーション。世界を舞台に、堂々と話すプレゼンターたちに、心を動かされた人も多いことでしょう。そもそも人の心を動かすプレゼンとは、どのようなものなのでしょうか。また、そのようなプレゼンをするために、どういった指導が考えられるのでしょうか。本特集では、さまざまな分野で活躍される方たちのお話を伺いながら、それらについて考えていきます。



イラスト：田上晶

PRESENTATION  
インタビュー

## プレゼンテーションの 極意とは？

NHK解説委員

中谷日出

NHKの解説委員を務める中谷日出さん。さまざまなテレビ番組に出演し、「毎日プレゼンです」と話す中谷さんに、ご自身がプレゼンをする際に心がけていることや、中学生に身につけてほしいプレゼン力について伺いました。

### わかりやすい ビジュアルを示す

——中谷さんは、NHKが放送七十周年を迎えたとき、さまざまなプロジェクトを企画し、実現させました。そのとき、当時のNHKの会長にプレゼンをされたそうですね。

NHKの新しい歩みを示すシンボルとして、ロゴマークをつくりたいと提案しました。そのときは、ロゴの案と、「こうやって使いたい」という具体的な使用場面を、ビジュアルで見せてプレゼンをしました。それが、NHKの「三つたまご」のロゴマークの原案です。

また、ロゴだけでなく、番組づくりについても提案しました。僕は、番組と番組の間に、CMのような短い映像を流したいと思っていたんです。そういう映像は今では当たり前になっていますが、当時は一時間の番組が終わったら、すぐ次の番組が始まり、視聴者は息をつく暇がなかった。だから、息抜きになるような短い映像を流したいと思ったんです。

でも当時は、「民放のCMのようだ」と、局内の反発も大きかったんですね。ですから、そういう人たちを説得するため、実際



写真：鈴木俊介

に、十五秒・一分・三分の映像をつくり、それを見せて提案したんです。プレゼンをするときには、最終形に近い具体的なビジュアルを示すようにしています。そうすると、イメージを共有でき、共感を得やすいですから。

それから僕は、たとえ相手がNHK会長でも、専門的な言葉は使わず、わかりやすいビジュアルを使ってプレゼンをするように心がけています。そういう意味で、池上彰さんが僕のお手本。池上さんは、テレビ番組「週刊こどもニュース」で、難しいニュースを、模型を使ってわかりやすく解説していたでしょう。ああいうふうに、プレゼンをしたいなあと、いつも思っています。



たいのか、まず図解して整理しなさいと伝えています。僕は「プレゼンテーション・マッピング」と勝手に名付けているのですが(笑)、この地図をつくれれば、原稿を書かなくてもプレゼンができます。

それに、図解して物事を考えると、自然に「要約力」が身につくんです。プレゼンには、この「要約力」がとても大事。「要約するにゃなんです」と説明できる力は、プレゼンの基礎になると思います。

## 「伝えたい」とは何が

——中学校二年の教科書には、「印象に残る説明をしよう。プレゼンテーションをする」という教材が掲載されています。グループごとにプレゼンの準備をして、発表するという内容です。今のお話を伺って、中学生がグループでプレゼンの準備をするときにも、マッピングは有効かもしれないと思いました。

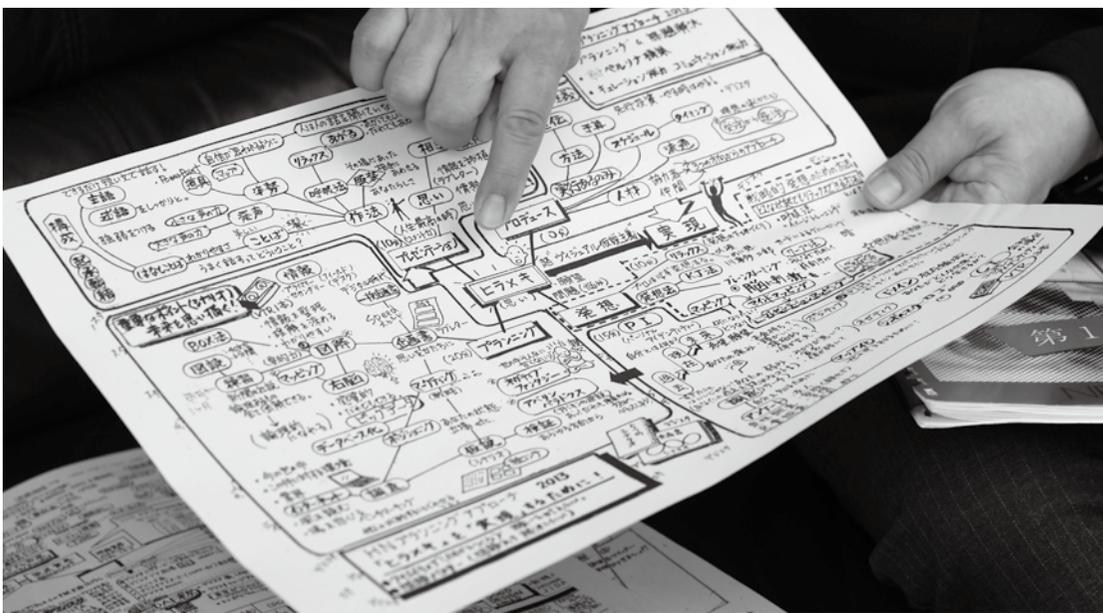
グループでプレゼンをする際、まず自分たちが知っている情報や伝えたいことを出し合うところから始まると思います。それらをすべて出し合って、その中から「何をいちばん伝えたいのか」「聞き手が知りたかったことは何か」を絞っていく。そのために

## 「図解して整理する

——中谷さんは、大学でプレゼンテーションについての講義をされているそうですね。

NHKでは、マスコミ志望の大学生を対象に「NHK講座」(※)を開いています。この講座では、現役の局員が交代で、番組制作、放送技術、放送ジャーナリズムなど、それぞれの専門分野について話をします。僕は、解説委員という立場と、これまで何度もプレゼンしてきた経験から、「プレゼンテーションの極意」というテーマで講義をしています。

ここでは、普段自分がプレゼンをするときに、どんなことをしているかをお話しています。僕はプレゼンをする前に、必ず自分が話したいことをすべて紙に書き出してマッピングします。そうやって図解していくと、自分が話したいことがどんどん明確になってくるんです。ですから、大学生には、何を提案し



▲中谷さんがプレゼン前にいつもつくる「プレゼンテーション・マップ」。これによって、自分が伝えたいことが明確になる。

## 「伝えたい!」という強い気持ち それがプレゼンテーションの極意です。

マッピングという方法は、とても有効なんじゃないかと思っています。

プレゼンテーションの指導って、パワーポイントをどう使うかとか、どういう話し方をすればよいかとか、ともすれば、テクニックを教える方向に走りがちですよ。でも僕は、「何を伝えたいか考えること」がいちばん大事だと思っています。だから、学校の授業でも「何を伝えたいか、グループで探すところに時間をかけてほしいな」と思います。

## 「伝えたい」という気持ち

プレゼンの原動力になるのは、何よりも「伝えたい」という強い気持ちです。余談になりますが、僕はプレゼンをするとき、自分を盛り上げて、時には準備のため前日に一睡もしないで(笑)、伝えたいという思いを最大限に高めてから、現場に臨むようにしています。

「プレゼンテーションの極意は何ですか」

と尋ねられたら、「相手へ伝えたいという強い気持ちだ」と僕は答えます。もちろん、独りよがりなプレゼンになってはいけなから、相手が聞きたいことが何かを考えた上、わかりやすい資料を準備したりします。その上で、プレゼン当日まで、自分の気持ちを高めていくことが大事だと思います。大学生にもよく言うのですが、流暢にプレゼンをする必要はないんです。うまく話せなくても「これを伝えたい」という気持ちがあれば、相手は耳を傾けてくれるし、共感もしてくれる。僕はそう信じています。(談)

なかや・ひで

神奈川県生まれ。広告プランニング、広告映像アートディレクターとしてフリーで活動後NHKに入社し、アートディレクションを担当。一九九五年文字を飾る形で冊子「新日コマック三つ」(たまご)のデザインを行う。九九年解説委員に就任(芸術文化、デジタル関連担当)。メディアリテラシーに取り組み、光村図書小学校「アップルズ」には、説明文教材「アップルズ」で伝える」が掲載されている。

